

平成貝塚に関する民間のノウハウ

①	あらゆる焼却灰に対して最適な固化剤の配合を調整することができる。
②	飛灰や溶融飛灰にも対応することができる。
③	鉛や六価クロムの不溶化も可能。
④	溶融スラグの利用も可能。
⑤	不燃残渣やその他の無機系の一般廃棄物(ガラス、陶器等)の利用も可能。
⑥	防水層(キヤピラリーバリア)に酸性雨を中和する石灰系の資材を用いる。
⑦	敷土に重金属類を不溶化する石灰系の資材を混合する。
⑧	流動床炉の飛灰を用いて岩手大学と共同で1年間の実証実験を行っている。
⑨	特区提案により廃棄物処理法の適用を受けない準備を完了している。
⑩	地域住民とのリスクコミュニケーションを行うことができる。
注	公平性を確保するために必要な施設は可能な限り分散して整備する。
注	必要な施設は民間が整備して市町村にレンタルする(完成後は無償譲渡)。
注	アルミ系の一般廃棄物には対応できないので分別を徹底する。